

公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ

一緒に考えよう 小金井市のこれからの公共施設

第1回結果報告

第1回
12月14日（土曜日）

第2回
1月25日（土曜日）

第3回
3月1日（土曜日）

1、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ 目的・実施概要

(1) 開催目的・趣旨

公共施設を取り巻く社会環境が大きく変わる中、市では、市民の大切な財産である公共施設について、これからの時代に必要な在り方及び既存施設の再編について検討を行っています。普段利用している身近なサービスや公共施設について考え、その実現に向けた気づきやアイデアを提案してもらい、今後の具体的な検討につなげることを目的として全3回ワークショップを開催します。

(2) 実施概要

	第1回<終了>	第2回(予定)	第3回(予定)
日時	令和6年12月14日(土) 13時~16時	令和7年1月25日(土) 13時~16時	令和7年3月1日(土) 13時~16時
場所	小金井市市民会館(萌え木ホール)		
参加人数	市内在住又は在勤・在学の方を対象に定員35名にて募集を行ったところ、第1回は10名の方にご参加いただきました。		
	10名		
プログラム内容	<p>必要な公共サービスって なんだろう？ 未来の公共施設で 何をしてみたい？</p> <p>あなたは未来の公共施設で何をやりたいですか？ 行きたくなる、使いたくなる公共施設にしていくために、皆さんのやりたいことを教えてください。</p>	<p>みんなのやりたいを 実現するために 必要な機能を考えよう</p> <p>どのような場所になったら、あなたのやりたいを叶えられますか？ みんなの希望を叶えるために、未来の公共施設に必要な機能を一緒に考えよう。</p>	<p>日常生活に密着した 地域の拠点と施設配置を 考えてみよう</p> <p>地域の拠点となる施設はどんな施設で、その施設はどこにあったら行きたくありませんか？</p>

2、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ 第1回結果概要

(1) プログラム内容とワークショップの流れ

プログラム内容

テーマ

必要な公共サービスって
なんだろう？
未来の公共施設で
何をしてみたい？

内容

- 1 開会
白井市長挨拶
- 2 市の公共施設にかかわる現状、これまでの検討経緯の説明
全体のロードマップ「公共施設在り方検討委員会」の検討における 論点の説明
- 3 ワークショップ（グループワーク方式）
- 4 総評（神山副市長・高橋庁舎建設等担当部長）
- 5 閉会

ワークショップの流れ

STEP 1

自己紹介



13:35～
5分間
自己紹介
(係り決め)

STEP 2

テーマにそって
意見交換



13:40～ 意見交換
ワーク1 55分間
休憩 5分間
ワーク2 45分間

STEP 3

班のみんなで共有



STEP 3-2

みんなで共有
のための準備



15:25～
5分間
まとめ・発表
準備

STEP 4

各班発表



15:30～
発表・質疑
発表は各班5分

2、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ 第1回結果概要

(2) ワークショップの様子

市長挨拶



白井市長から少子高齢化に向け公共施設をどう整備・整理していくか、在り方を考えていく時期にきていることを参加者に説明。公共施設は市民にとって重要な施設であり、皆さんが日頃、利用の際に感じていることなどを出していただくこと、参加者の交流の機会となることを期待している、と挨拶しました。

市の公共施設に関する現状等の説明

公共施設マネジメント推進担当課長より、市の公共施設に関する現状やこれまでの検討経過、平成28年に実施した小金井市公共施設等に関する市民アンケート調査結果や、現在進めている「公共施設在り方検討委員会」の検討における論点等について、参加者に説明しました。

アイスブレイク

ワークショップに入る前に、グループごとに自己紹介を実施。1班では今年の推し・一番うれしかったことをテーマにお話しをいただき、始めから盛り上がりました。互いのことを少し知って意見交換の準備ができました。

ワーク1



まずは「普段どのような公共施設を使っていますか」では、施設のみならず公園や公共のスペース、そもそもどこにあるか分からないといった声も…。ワークが進むにつれて緊張が解け会話も増えてきました。「行きたくなる・使いたくなる公共施設、未来の公共施設で何がしたいか」では、多くのアイデアが出されました。

ワーク2



ワーク1 で出たアイデアをグルーピングして整理します。メンバーが積極的に加わり、次々とカテゴリ別に割り振られていきました。

発表



各班を代表して、お二人に各班で出されたアイデアや意見、特徴的な内容を発表していただきました。発表後には質問時間を設け、闊達な意見交換が行われました。

総評



最後に神山副市長・高橋庁舎建設等担当部長より総評。2グループが異なるアウトプットになったことが非常に興味深い。グラデーションのあるつながり、また地域につながる人はたくさんいて、行政とどうつながりまちづくりをすすめていくか、一緒に考えていかないといけない。庁舎移転や武蔵小金井駅北口再開発など小金井市のまちが大きく動く時期でもあり、ぜひご協力いただきたいと総評をさせていただきました。



2、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ 第1回結果概要

(3) ワークショップの結果まとめ

ワーク1

公共施設の利用状況

- 日常的に利用している施設としては、図書館やスポーツ施設
- イベント等の利用では、集会施設、公民館や学校利用

日常的には図書館やスポーツ施設などの定期的な利用が多く、一方で、イベント等のスペースが必要とされる活動では集会施設等が利用されている。

- 他市施設では「武蔵野プレイス」を利用
- 建築系施設ではない公園や公共スペースとして駅前広場やスーパーなど

4市相互利用で使える武蔵野プレイスの評価は高い。また、高齢者や障がいのある方の社会参加や外出の機会をさらに促進するためユニバーサルベッドのあるトイレの普及が施設利用の前提になる等の声もあり、時代に合わせた設備の整備も求められている。

- 公共施設がどこにあり、どのような機能を持っているのかわかりにくい

公共施設の情報の発信方法についても検討が必要と考えられる。

ワーク2

必要な公共サービスってなんだろう？ 未来（20年後ぐらいまで）の公共施設で何をしてみたい？

【1班 発表内容】

- 公共施設に必要なプログラム、公共施設で実現できるものをインフラや食・カルチャーなどにカテゴライズ。共通するのは**継承していく人がいないと、使われない施設・市民から離れた施設になりかねないこと。**
- **キーとなるのはつなぐ・まとめる人**であり、そのような人が居たうえで、アイデアとして出されたプログラムを実現していくことが大事である。

【2班 発表内容】

- **世代によって使い方、また、コミュニティの度合いも変わっていく。**
- 大人になるにつれ利用割合は減っていくものの、一方で高齢者や未就学児は目的がなくとも使うことができ、**地域・社会と多くのつながりを持つことができる公共施設**が求められている。

【意見交換】

様々なカテゴリの機能やサービスをつなぐ役割の方がいて、つなぐ機能が発揮されることで、目指すべき姿が実現される。多様性を認め、暮らしの一部となる施設。

世代や立場によって分けるのではなく、横のつながりも大切。またそれぞれの活動範囲は異なることから、コミュニケーションの度合いによって求められる場の提供が必要。

最終的には人であり、人を巻き込む、地域の皆で作っていく。市民参画を促すために市民への周知も大切。

- ニーズが多様化している。**具体的な目的をもった場よりも居場所を求めている。**理由がなくても利用できる場、そこで子どもも高齢者も若い方も、世代や立場に関係なく、集い交わることでイノベーションが起きる。
- まちづくりの側面から見ても、**地域に開かれた施設であることが大事。**ハード面だけでなく、みんなの居場所の実現のために**人と人をつなぐ機能（コーディネーターやコンシェルジュ）**は欠かせない。

みんなの居場所

人と人をつなぐ機能

一緒に考えよう 小金井市のこれからの公共施設

公共施設の利用状況

どのような施設をいつ・どう・だれと利用している？

建築系公共施設 市内

図書館

- 東町図書館：週末本を借りに行く
- 図書館：本の貸し出し
- 第一小横の図書館：ユニバーサルベッドがあるトイレ利用

スポーツ施設

- プール：毎週煩惱スイム108本

集会施設

- 集会施設：イベント利用

児童館

- 餅つき、子ども縁日

公民館

- 貫井北センター：ミニ小金井
- 緑センター：地元の子ども縁日イベント

学校施設

- 第三小学校：遊びイベント、焼き芋、お泊り会

公共スペース 市内

駅等

- 駅前：電車を見る
- 新小金井駅前の広場：週末地域のイベント、催しものを見る
- バス乗り場：武蔵小金井駅、東小金井駅、新小金井駅

スーパー

- イトーヨーカドー：フードコート（車イス利用お昼ご飯）
- イトーヨーカドー：ユニバーサルベッドがあるトイレの利用

公園

- 浴恩館公園：BBQパーティー、遊び
- 野川公園：週末散歩、ランニング
- 公園：ユニバーサルベッドがあるトイレの利用
- 梶野公園：遊び、おまつり

その他

- 市民掲示板：自身の開催イベントの告知
- 笠森稻荷：週末ランニング後にストレッチ
- ユニバーサルベッドのあるトイレ

その他

その他

- 近所、スーパー：散歩（車イス利用）
- エレベーター、スロープ、駐車場、トイレがあるところ

他市施設

- 武蔵野プレイス：週末コーヒーを飲みながら本を読む
- 武蔵野プレイス：平日AMテレワーク

利用しない

- そもそもどの公共施設がどのようなものか分かりにくい
- 場所がわからない

一緒に考えよう 小金井市のこれからの公共施設

必要な公共サービスって
なんだろう？
未来の公共施設で
何をしてみたい？

インフラ

- 場を保持（市民が集まれる）
- インターネットWi-Fi
- 地域と学校が交流→調理室や家庭科室など、共用プール
- ワークスペース、リモートワークができる
- 公園の横で共同炊事、みんなで食事
- 受付の対応が温かい
- 必要なものを交換、回せる場（交換会）
- 「障害者」センターとかネーミングを変えたい
- 気軽に通える、体を動かせられるような施設
- サイクリストに優しい街（道、スタンド、立ち寄れる）
- 公園に日よけが欲しい（夏場、肢体不自由）
- 公園の横で共同炊事、みんなで食事
- 汚れてもいい場（子供遊び）
- 浅い水場
- 障がいのある人がオムツを付けていても遊べるプール

目指す姿

- まぜこぜ
- 人の視線が分散される場
- 誰の子？誰が親？おじいちゃん、おばあちゃんが分からない場
- 「あれダメ、これダメ」言わなくていい場
- 過ごし方を強制されない
- 少しの対価があり、達成感を感じられる
- 日々の暮らしの一部に
- 暮らしが変わる時の伴走者
- 必ずしも「快適」ばかりが「良い場」とは限らない
- 障がい児が成長して大人になった時に、「変な人」と言われない場（出会う機会）
- 助けてほしい、手伝ってほしいと言えるきっかけ
- 人の手を借りて生活できる場（地域）
- 「ちょっと見てて」が言える地域
- 自分（家族）だけで頑張らなくていい地域
- 声をかけてもらえる、出かけてよかったと思える繋がりがある
- それぞれの安心
- みんなで気軽に声を掛け合える（あいさつ）場

つなぐ・まとめる

- 人の集まりがタコツボ化しない仕組みづくり
- 伴走者がいる場
- コーディネーターが人をつなぐ
- ソフト面に人材を使う、コーディネーター等の配置
- 公民館へのコーディネーターの配置
- 人を巻き込む・人をつなぐ人
- 男性のコミュニティづくり

情報

- 情報をつなぐ
- 市報が見やすい
- 市のサイトが見やすい
- オンラインではない地域の伝言板

場・だべり場

- カフェがある
- しゃべらなくてもいられる場
- 休憩所
- 居座れる場所
- 小学校の片隅のプレーパーク（プレーリーダーがいる）
- 建物横で道遊び・外遊び
- お祭り騒ぎだけではない集い
- 集まれる場が沢山欲しい
- テーマ・理由もなくだべり場
- 大人も子供もだべり場
- 顔を合わせられる場

みんなで作る

- 好きに使える公民館（貼るな、するな！はダメ）
- 地域の人活躍できる場（参加）
- できることを持ち寄れる場
- みんなで作る場
- 近所との交渉を利用者がやる

カルチャー

- 質の良い芸術に触れられる場
- ものづくり（工芸/陶芸/3Dプリンター）
- 歌う、演奏
- 学び（カルチャー/地域/集まる）

食

- キッチン、シェアキッチンがある
- バーベキュー、調理
- 調理したい、みんなでご飯を作って食べる
- 焚火の会、屋外カフェ

一緒に考えよう 小金井市のこれからの公共施設

公共施設の利用状況

どのような施設をいつ・どう・だれと利用している？

市内
建築系公共施設

公民館

- 貫井北：自習（放課後、土日）親子共に使う
- 公民館：高齢者学級（講座）に数年通っている
- 公民館：子供会

スポーツ施設

- 栗山公園健康運動センター：ジム、子どもはプール、友達は体操

学校施設

- 体育館：子供教室（学校の一部利用、学校開放）

大学

- 大学：キッズプール

その他

一緒に考えよう
小金井市のこれからの公共施設

必要な公共サービスって
なんだろう？
未来の公共施設で
何をしてみたい？

- 未就学 (0～5歳)
- 小学生・中学生
- 高校生・大学生
- 大人
- 高齢者

